



「まちの「お宝資源」」

9月18日付神戸新聞朝刊の記事に加古川の「お宝資源」についての記事がありました。私も加古川に住み始めて29年目になります。すっかり加古川の魅力に夢中ですが、改めて「お宝」といわれると、なかなか難しいものです。皆さんはどのようなものを想像しますか？

「じゃらんリサーチセンター」の提案内容によると、レベルが3段階に分けられています。

まずは、「お宝資源」として、かつめし、花火大会、加古川和牛を選ばれています。かつめしは、「かつめしマップ」が作成されるほど多くの店が存在しています。かつめしのソースも有名メーカーをはじめ、数社が製造・販売するほどの人気です。加古川和牛は、阪神間では知名度があり、わざわざ時間をかけて食べに来るほどの人気です。



次に、「サブお宝資源」として、日岡山公園、鶴林寺、平荘湖があげられています。日岡山公園は兵庫県下の桜の名所にもあげられ、シーズン中は駐車場が溢れかえるほどの人気です。鶴林寺は聖徳太子開創の寺院で、国宝の太子堂・本堂は貴重な文化財です。新しい宝物館もでき、寺宝の定期的な展示がなされており、歴史ファンのみならず、市民の文化力向上に大きな役目をはたしています。

最後に、「ポテンシャル資源」として、高御位山、みとろフルーツパークがあげられています。高御位山は別名播磨富士とも呼ばれ、標高304.2mということからも初心者向きの山歩きに適しているということで人気スポットとなっています。山頂には自ら創作したグライダーを飛ばした渡辺信二の飛翔の碑があります。

ぶらり加古川で紹介したものだけでも、まだまだ多くのスポットがあります。この際、加古川の魅力を再発見してみたいはいかがでしょうか。